

タイルカーペット 注意事項

選択上のご注意

- 歩行マークは製品の耐久性を示す目安です。歩行マークの耐久性以上の用途での使用は避けて下さい。詳細は本誌519頁をご参照下さい。
- 繊維製品ですので、実際の厚みは表記と多少異なる事があります。ご了承下さい。
- 防汚マークは、製品の防汚性を示す目安です。用途に応じた防汚性のタイルカーペットを選択して下さい。日常メンテナンスが美観の保持には最も効果的です。維持管理にご留意下さい。
- 乾燥した室内など静電気の発生しやすい場所では、制電性の良いタイルカーペット(人体帯電圧の数値の低いもの)をご採用下さい。

電算室・コンピュータールームなど、特に高い制電性を求められる部屋では、超制電タイプのタイルカーペットをご採用下さい。

- ! 病院など抗菌性能を求められる場所では、その性能をご理解していただいた上で、抗菌性能を付加したSEKマークのタイルカーペットをご選択下さい。人体への影響が少ない抗菌剤を使用しておりますが、乳幼児が誤って経口する可能性のある場所では使用を避けて下さい。

- 淡色のカーペットの場合、汚れが目立ちやすくなります。カーペットの選定時には色についても充分ご配慮下さい。
- カットパイルは、パイルの方向が部分的に乱れ、雲状の色ムラの様に見える事があります。この現象は、カットパイルの性質であり、品質上の欠陥ではありません。
- ポリプロピレンのカーペット選定に際しては、ご使用の場所とポリプロピレン素材品の特性に充分ご配慮下さい。詳細は本誌522頁、523頁をご参照下さい。

ウールなど紡績糸使いのカーペットは遊び毛が出ます。遊び毛、毛玉の出ないカーペットを望まれる場合は、BCFナイロンなどフィラメント糸を使用したカーペットを選択して下さい。

- ロットの違いによる色差の生じる場合があります。あらかじめご了承下さい。
- ストライプ柄は、ストライプの位置が一枚一枚異なりますので、柄はつながりません。仕上りは空間写真でご確認下さい。
- リサイクル材を使用している製品は、裏面の色や裏面の仕上り状態にバラツキが生じる事があります。リサイクル材を使用する事による品質への影響はありません。
- 下地から絶えず湿気の上昇が予想される場所では使用を避けて下さい。接着不良や臭気が発生する事があります。

コンクリート系下地の場合、そこにアルカリ性の過剰な水分(「高周波水分計HI-520-2型D.MODEで440未満=水分指標8%以下」以上が目安)があると、塩ビ樹脂中に含まれる可塑剤が分解して、異臭(アルコール系)が発生した事例があります。施工前に、必ずコンクリート・モルタル水分計「HI-520-2型」で水分指標を確認し、水分指標が高い場合は、充分乾燥させて下さい。

- 建築基準法・消防法によって、使用方法ならびに使用場所に制限があります。各法令法規をご確認下さい。
- 本カタログの掲載写真の一部に合成写真を含みます。
- 本カタログ掲載の写真や画像は、現物と若干違いのある場合があります。ご採用の際には必ずサンプル帳などをご確認下さい。
- 掲載されている施工写真は一例です。掲載写真と製品の色柄は実際とは異なり、実際の施工はこのとおりに仕上りませんのでご了承下さい。

施工上のご注意

■ 施工前

- 施工の前に「東り施工マニュアル」をご一読下さい。
- 梱包ケースに記載されている品名・色番・ロット・数量を確認の上、施工を開始して下さい。同一床面上は、同ロットで仕上げて下さい。
- 製品は不規則に梱包されていますので、柄はつながりません。
- 二重床への施工は、またぎ貼りを基本とし、二重床パネルの目地がタイルカーペットのほぼ中央にくるように割付けて下さい。詳細は「東り施工マニュアル」にてご確認下さい。
- タイルカーペットは全面接着工法が原則です。フローリング等の下地に接着剤を用いずに施工した場合、下地が汚染されたり変質するおそれがありますので、下地の養生目的等に使用しないで下さい。
- タイルカーペットは、室温になじませてから施工を開始し、施工中は急激な環境変化のないようにして下さい。室温とタイルカーペットに温度差があると、施工直後だけでなく、後日、目地スキ、突上げなどをおこす可能性があります。
- エコマーク認定製品及びグリーン購入法適合マークのついたタイルカーペットは、室温5℃以下での施工は避けて下さい。
- 下地は湿気のない平滑かつ堅牢なものとし、適切な施工環境を維持して下さい。施工条件を順守しなかった場合、目地スキや突上げ、膨れ、臭気などを招く場合があります。
- 下地にワックス、グリス、油類、塗料などの汚れが残っていると、接着不良を発生させる可能性があります。完全に除去した後、施工を開始して下さい。
- 開口部が大きいOA下地への施工は、タイルカーペットの破損等のおそれがありますのでご注意下さい。

■ 施工中

- 製品の指定接着剤を使用して下さい。
- タイルカーペットの裏面に印刷されている矢印の向きを確認し、施工して下さい。逆目に施工すると色相が異なって見える可能性があります。
- 製品ごとに設定している標準の貼り方(市松貼り標準、流し貼り標準、ランダム貼り標準)で施工して下さい。標準の貼り方以外で施工した場合、貼上りの色ムラや目地が目立つおそれがあります。但し、階段へ施工する場合は、階段部は流し貼り、踊り場は指定がない限り市松貼りを標準とします。
- タイルカーペットの模様貼り(デザイン貼り)の際は、端部に細かな端物などが入らないよう、割付け時に配慮して下さい。
- 東りエコGAセメントは平バケ又はスポンジローラー等で塗布して下さい。吸水性のある下地(コンクリート系下地)で60~100g/m²、吸水性のない下地はスポンジローラーで40~60g/m²を、塗布量の目安とします。
- 東りエコGAセメントは、ピールアップ性を確保するために、塗布後、半透明になってから貼付けを開始して下さい。半透明になった後、つめすぎないように施工して下さい。
- 目地にパイルを挟まないように注意して下さい。目地スキや目地段差の原因となります。
- タイルカーペットは冬場はパイル糸が固くなり膨みが不足して、目地が隙いて見える事があります。徐々に緩和されますので通常通り施工して下さい。
- カットパイル品をカットする際は、裏面からカットして下さい。

! 施工中は、他業種による汚損・事故の発生を防ぐために、床工事関係者以外の立ち入りを禁止して下さい。

タイルカーペット 注意事項

施工上のご注意

■ 施工後

- 施工後、一枚一枚の色差や目地が目立つ場合、および色柄や仕上りに違和感がある場合は、部分的に差替えて下さい。差替える事で自然な感じが得られます。
- 養生シートで養生する場合に用いる感圧粘着テープの種類によっては、養生シートの上からパイルを変色させるものがあります。できるだけ感圧粘着テープの使用は避けて下さい。やむを得ず使用する場合は、事前に変色の有無を確認してからご使用下さい。変色の有無の確認については「東リ施工マニュアル」をご参照下さい。
- 施工後、台車の往来や家具の移動によって過度の応力がかかると、タイルカーペットが剥がれる事があります。重荷重のものを往来させる際には、合板などで保護して下さい。
- 引き渡し掃除の際、清掃作業者に漂白剤やサビ取剤をこぼさないように指導して下さい。パイルの変色を招きます。

！ 施工後、残材等を廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託して下さい。梱包ケースなどを焼却する場合は、都道府県条例に基づき処分して下さい。タイルカーペットを燃やすと有毒ガスが発生します。

メンテナンスならびに使用上のご注意

■ メンテナンスのご注意

- 汚れが付着した際には、すぐに汚れが広がらないように注意して拭取って下さい。時間の経過と共に除去しにくくなります。なお、汚染物質によっては除去不可能なものもあります。
- 部分的にシミとなった汚れを除去する際は、汚れの原因に応じたシミとり剤や中性洗剤などを使用して下さい。選択を誤ると、かえって変色などを招く可能性があります。

！ 美観の維持及びホコリ防止のため、歩行量に応じて電気掃除機あるいは真空掃除機による日常メンテナンスを行って下さい。業務用スペースでは、日常メンテナンスと併せて、用途に応じた定期的な集中メンテナンスをおすすめします。詳細は本誌541頁をご参照下さい。

- ブラシ付き真空掃除機を使用する際はパイルを損傷する可能性がありますのでご注意下さい。

■ 使用上のご注意

- タイルカーペットは熱によって変退色・溶融する可能性があります。たばこや火花の飛び散りなどは避けて下さい。
- 化学薬品や強い作用を持つ洗剤、漂白剤等により、変退色や変質を招く可能性があります。こぼさないようにして下さい。
- 殺虫剤など害虫駆除剤の中にはパイルを変色させる薬剤があります。事前に駆除業者にご確認下さい。
- 室内の湿度が低いと静電気が発生しやすくなります。加湿器などを使って湿度調整を心がけて下さい。
- 直射日光など、環境条件によって変退色の可能性があります。カーテン・ブラインドなどで日よけをして下さい。
- ある種の家具の脚ゴムやゴムマットなどのゴム製品、塗料、防腐剤、防虫剤などによって汚染され変退色を招く可能性があります。これらに直接触れないようにして下さい。
- 土砂の持込みなどが予想される場所では、泥よけマットなどを出入口に設置し、室内に土砂が持込まれない工夫をして下さい。
- パイルがホツレた場合、ホツレの伝線を防ぐためにも、すぐにハサミでカットして下さい。
- ハイヒールや家具などの局部荷重により、へこみ跡が残る可能性があります。特にスノコ状の二重床の場合は、充分にご注意下さい。
- コンクリート壁面を流れ落ちる結露水は、パイルを変色させたりカビを発生させる原因となります。換気をよくするなど、結露を発生させない工夫をして下さい。

！ タイルカーペットの剥がれ、反り、膨れなどが生じた場合は、即座に補修して下さい。放置しておくと、全体に影響が及び、美観を損なうほか、転倒事故を招く可能性があります。

- 素材固有の臭いがあります。換気を心がけて下さい。